

学生懸賞論文執筆要領 : 様式編 (参考資料)

0. 応募論文について

応募論文について、学内ゼミナール大会等で発表したもの(報告書)を指導教授の指導を受けて今回の応募論文用として改訂したものは、未発表のものとして看做します。応募に際して、指導教授に指導を受けてください。

原則としてこの様式に従って執筆すること。ただし、分野によって固有の様式がある場合は、それに従って執筆してもよい。固有の様式について不明確な場合には、指導教授に相談すること。

1. 全体の形式

- ①表紙にはタイトルを記入
- ②次ページには、目次
- ③本文は、1. はじめに(序), 2. ……(本論), 最後に5. まとめ(結論)
- ④引用文献は最後にまとめて掲示する。

2. 禁則処理

- ①句読点は、行の頭(マス目の先頭)に置かない。行末に詰め込むこと。
- ②括弧([], { }, () など)には1マスを使う。
但し、閉じ括弧は、行の最初(マス目の先頭)に置かない。行末に詰め込むこと。
- ③数字、英単語は1マスに2文字程度を書く。
但し、USAのような固有名詞等は、適当なマス数を使って、やや大きめに書く。
- ④?や!の後は、1マスあける。
- ⑤…やーは、2マスを使う。
- ⑥横書き論文では、数字はアラビア数字(1, 2, 3, …)を使う。
但し、熟語は漢字で。(例) 十人十色

3. 文章の長さや段落の付け方

- ①文体は、である調(です・ます調は不可)
- ②主語を明らかにする。
- ③一つの文章で、一つの事柄をいう。(簡潔さ)
30字を超えたら、論理の破綻があると思え!
- ④文章のつなぎ(接続詞)をうまく使え。
ロジックが読み手に伝わるように。
- ⑤段落はこまめにつける。
段落とは、複数の文章からなるひとまとまりの主張のこと。
- ⑥複数の段落で語られる問題意識を「節」という。
- ⑦複数の「節」で構成される論理を「章」という。

4. 引用等のしかた

- ① 参照した文献・情報については、注記をつけて明確に表示しておくこと。
- ② 他人の文献や考え方について、要約した場合でも、またそれを直接引用する場合でも、出典を明示すること。図・表にも出典の明示が必要。
他人の文章を全部または一部を、そのまま論文の中取り込んで用いる引用は、その部分をかぎかっこ(「 」)で囲み、引用したものであることを明示すること。
これがなければ、盗作になる。
- ③ 本文中での引用文献の表示方法
例1. 上つき半かっこ)式 *)
……………「……………」……………
例2. 名前一年号方式
……………「……………(奥村, 1986, 13頁)」……………
- ④ 引用のしかた [表記例]
* 雑誌等の論文の場合:
引用番号) 著者名, 「論文名」, 所収雑誌※巻※号, ※※年, ※※-※※頁。
または、引用番号) 著者名, 「論文名」, 所収書名, 出版社, ※※年, ※※-※※頁。
* 単行本の場合:
引用番号) 著者名, 『書名』, 出版社, ※※年, ※※-※※頁。
1) 奥村昭博, 『企業イノベーションへの挑戦』, 日本経済新聞社, 1986年, 11頁
* 翻訳書の場合:
引用番号) W. Abernathy, K. Clark, & A. Kantrow, Industrial Renaissance,
(New York: (出版社名), (出版年)), pp. — (望月幸監訳, 『インダストリアル・ルネサンス—脱成熟化時代へ』, TBSブリタニカ, 1984年。
* 英語論文の場合:
引用番号) W. Starbuck, “Organizations as Action Generators,”
American Sociological Review, vol. 48 (1983), pp. 91-102。
* 同じ文献の場合:
引用番号) 同上書, 29頁。 [但し、直前の文献の場合]
引用番号) 著者, 前掲書, pp. 45-48。 [一度掲げた文献の場合]
引用番号) Ibid., 110。 [直前の文献の場合]
引用番号) W. Starbuck, Op. cit., pp. 12-13。 [一度掲げた文献の場合]
- ⑤ インターネット上で公開されているファイル等を参照した場合でも、引用を明示すること。
例: 引用番号) 著者名, 「 」, 媒体表示, <入手先>, (入手日付)
1) 松山太郎, 「論文の書き方」, オンライン, <http:// >, (accessed Aug. 30. 2003)